

## 2

## 深浦町立修道小学校

目次	ページ
修道小学校の防災教育 「長く・楽しく・一緒に」	51
修道小学校 未来の防災リーダー育成計画	52
防災教育指導要領	53
防災教育年間計画（令和4年度）	54
教科等横断的な防災教育の取組について	56
1 学年	56
実践事例1 生活 がっこうたんけんにいこう	56
2 学年	57
実践事例2 生活 町たんけん	57
実践事例3 学級活動 地震がおきたら	58
3 学年	59
実践事例4 道徳 心をつないだ合言葉	59
実践事例5 学級活動 地震が起きたら	60
4 学年	61
実践事例6 社会 自然災害からくらしを守る～地震からくらしを守る	61
実践事例7 道徳 神戸のふっこうは、ぼくらの手で	62
5 学年	63
実践事例8 社会 自然災害を防ぐ	63
実践事例9 総学 災害が起きたら	64
6 学年	65
実践事例10 国語 パネルディスカッションをしよう	65
実践事例11 社会 震災復興の願いを実現する政治	66
外部専門家の活用について	67
東日本大震災の経験者による講演 講師 株式会社8 kurasu 菊池 のどか 氏	67
大学教授による出前授業 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	69
地域と連携した防災訓練について	71
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	75



# 修道小学校の

## 防災教育

### 目標

◎自分で判断・行動し、自他の命を守る未来の防災リーダーの育成

- (1) 災害発生時に自他の命を守るために必要な知識及び技能を身に付ける。(知識・技能、関心)
- (2) 知識・技能をもとに自らの思考・判断を働かせ、変化していく状況に応じて適切な行動がとれる力を育成する。(思考力・判断力、主体的行動)
- (3) 地域の人や家族など、人との関わりから、絆の大切さや生命の尊さを学ばせるとともに、地域の人たちと一緒に避難訓練や避難所の設置・運営訓練を継続することを通して、有事の際に協力し合い、より良い行動をとれる人間性を育む。(学びに向かう力、人間性、規範意識の醸成)

【キーワード：長く・楽しく・一緒に】

## 未来の防災リーダーの育成 ～アクションカードを使った避難所設置訓練～

### 手立て1 防災・減災の知識を身に付ける（自助）

災害のメカニズム、地域の地理や災害の歴史、防災・減災に関する知識・スキル  
災害の怖さだけでなく、自然の素晴らしさも学ばせる。  
楽しく学ぶ。(防災かるた・防災カードゲーム等)  
防災学習会

(学級活動年間指導計画の中に、防災教育を位置づけ実践する。)

※学活年計の見直し

### アクションカードを使った避難所設置訓練をする。

### 手立て2 規範意識・(共助)の心の醸成

授業づくり、生徒指導の前提となる行動様式の徹底

- ①廊下は静かに歩く。
- ②朝会や集合時の集合・整列・移動は、静かに整然と行う。
- ③静かに話を聞く。

### 手立て3 判断力、思考力、表現力の育成～これらを意識した授業づくり

昨年度まで校内研で取り組んできた「話し合い活動」とも密接に関わる力である。  
あおりおりもりノートを活用した授業づくり（指導案の作成と実践）

## 地域を巻き込む防災教育～防災の町づくり

### 手立て1 避難所設置訓練を、地域の方と一緒に毎年実施する。

5月の町の防災訓練は避難所設置訓練とする。

(現在はまだまだ、子どもたちだけの力による避難所設置訓練であるが、  
地域の人たち呼びかけ、徐々に一緒に避難し、一緒に避難所設置  
ができるようになっていく。)

### 手立て2 地域の人と一緒に、防災を学ぶ機会を設定する。

5月の避難所設置訓練の後に、地域の人たちと一緒に防災学習会を開く。  
今年度は、講演会を予定している。

来年度からも、一緒に防災を学び活動の時間をとる。一緒に防災かるたやゲ  
ームに取り組んでもいいし、防災グッズを作ったり、サブイバルクッキング  
に挑戦してみたりする機会としていけばどうだろう。

### 手立て3 防災教育のフェーズフリーを目指す。

地域の人が集まる様々な機会を活用して、防災について日常的に学ぶ。  
例えば…運動会に防災に関する競技を取り入れる。参観日や学習発表会に  
防災に関するゲームや、防災のクイズをする等。



# 修道小学校 未来の防災リーダー育成計画

令和5年4月作成

年次	行事・活動 担当	町防災訓練	防災基礎学習会			防災授業・フェーズフリーの取り組み等			地域連携
			避難所設営後の学習会	総務部・研修部	庶務管理部	保健安全部	研修部	生徒指導部	
1	2021 (R3)	5月26日(水) 避難所設営訓練	保健安全部・生徒指導部 応急手当・心肺蘇生 テント設営・段ボールベッド	6月「津波のメカニズムと浸水想定」 講師：奥河川砂防課 8月「アクションカードと避難訓練 について」 講師：青森県防災士会 日本赤十字社青森県支部	・職員室前廊下ガラス戸棚の撤去 ・校舎内の整理	避難訓練計画 ミニ避難訓練計画 シエイクアウト 訓練計画 避難所設営訓練・ 避難所運営訓練 の計画と実行	防災授業の実践 推進 あおりおもまも りノートを活用 推進 道徳授業の充実	規範意識の醸成 と徹底 ・生活目標 ・話を静かに聞 く態度の育成等	防災計画 防災事業コーデ ィー ネットワーク (中学校、保育園、 消防団、役場防災 班、教育委員会、 県、自衛隊等との 連携)
2	2022 (R4)	5月26日(木) 避難所設営訓練 自衛隊けが人搬 送訓練	講演会 講師：菊池のどか氏 対象：全校児童、地区住民	11月 [修道小学校の地形と防災マップ作り] 講師：小岩直人氏 (弘前大教授)	・賞状額縁 (ガラス) の撤去 ・校舎内外の整理・整備	避難経路の安全 確認	総合的な学習 (地域理解)の充実	避難経路の安全 確認	QRコード等を活 用した避難所運営 システム等の構築 (役場との連携)
3	2023 (R5)	5月26日(金) 避難所設営訓練	防災学習会 協力：自衛隊青森地方協力本部 五所川原地域事務所 対象：全校児童、地域住民	(深浦の自然災害の歴史) 講師：深浦町役場防災班	・消火器の転倒防止グッズの設置 ・戸棚、掃除用具入れ等の固定 ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	避難経路の安全 確認	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	子どもを守る連絡 協議会
4	2024 (R6)	5月24日(金) 応急手当・心肺蘇生	応急手当・心肺蘇生	(地域の活動を知る) 講師：地区消防団長	・ガラス飛散防止シート設置 (2階校舎棟) ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
5	2025 (R7)	5月26日(月) 防災ワークショップ・サバイバル飯	防災ワークショップ・サバイバル飯	マイタイムライン講習会	・ガラス飛散防止シート設置 (1階校舎棟) ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
6	2026 (R8)	5月26日(火) 避難所運営ゲーム (HUG)	避難所運営ゲーム (HUG)	県・大学・町等、外部の講師を招聘 して学習会を実施。	・ガラス飛散防止シート設置 ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
7	2027 (R9)	5月26日(水) 応急手当・心肺蘇生	応急手当・心肺蘇生	県・大学・町等、外部の講師を招聘 して学習会を実施。	・ガラス飛散防止シート設置 ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
8	2028 (R10)	5月26日(金) 防災かるた、防災ワークショップ (LODE)	防災かるた、防災ワークショップ (LODE)	県・大学・町等、外部の講師を招聘 して学習会を実施。	・ガラス飛散防止シート設置 ・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
9	2029 (R11)	5月 日 ( ) 防災スタンプラリー	防災スタンプラリー	県・大学・町等、外部の講師を招聘 して学習会を実施。	・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	
10	2030 (R12)	5月 日 ( ) 応急手当・心肺蘇生	応急手当・心肺蘇生	県・大学・町等、外部の講師を招聘 して学習会を実施。	・校舎内外の整理・整備 ・避難経路の整備	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	フェーズフリー の活動の工夫	

※各所で、防災教育・フェーズフリーの活動等について計画し、  
全体で実施する。

※学習会等の内容は、案として掲載。5月の防災訓練に関しては、  
町防災班とも連携を取りながら実施する。

## 1 防災教育の目標

◎自分で判断・行動し、自他の命を守る児童の育成

- ① 災害発生時に自他の命を守るために必要な知識及び技能を身に付ける。(知識・技能、関心)
- ② 知識・技能をもとに自らの思考・判断を働かせ、変化していく状況に応じて適切な行動がとれる力を育成する。(思考力・判断力、主体的行動)
- ③ 地域の人や家族など、人との関わりから、絆の大切さや生命の尊さを学ばせるとともに、地域の人たちと一緒に避難訓練や避難所の設営・運営訓練をすることを通して、有事の際に協力し合い、より良い行動をとれる人間性を育む。(学びに向かう力・人間性、規範意識の醸成)

## 2 重点的に育成すべき資質・能力

- ア 自他の命を守るための基礎的・基本的な知識・技能
- イ 思考・判断を働かせ、適切な行動をとる力
- ウ 心を育み、より良い社会づくりに参加し、貢献しようとする態度

## 3 各学年における防災教育の目標

	知識・技能・関心	思考力・判断力 ・主体的行動	学びに向かう力・人間性 ・規範意識の醸成
<b>1 学 年</b>	通学路や安全確保行動に関心を持ち、災害時の避難の仕方を知り、身を守る初期行動がとれる。	災害の怖さから適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。	身の回りの大人と話したり、交流したりすることから有事の際には、大人と連絡を取り合うことができる。
<b>2 学 年</b>	通学路や安全確保行動に関心を持ち、災害時の避難の仕方を知り、身を守る初期行動がとれる。	災害の危険性について知り、適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。	身の回りの大人と話したり、交流したりすることから有事の際には、大人と連絡を取り合うことができる。
<b>3 学 年</b>	地域社会や地域の地形等に関心を持ち、災害時の避難の仕方を知り、安全な行動ができる。	災害の危険性について知り、適切な避難の仕方考えたり、大人の指示を聞いたりして、適切な行動をとることができる。	進んで、家族や友達、周囲の人と関わり合うことから、有事の際には協力して助け合うことができる。
<b>4 学 年</b>	地域社会や地域の地形等に関心を持ち、災害時の避難の仕方を知り、安全な行動ができる。	災害の時に起こる様々な危険について知り、状況に応じて、身を守るための適切な行動をとることができる。	進んで、家族や友達、周囲の人と関わり合うことから、有事の際には協力して助け合うことができる。
<b>5 学 年</b>	災害のメカニズムについて関心を持ち、地域の災害の特性や防災体制について理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な判断のもと、主体的に身を守る行動をとることができる。	家族や友達、地域の人たちとの関わり合いを通して、有事の際には、周囲の人と助け合うとともに、他の人の役に立つ行動ができる。
<b>6 学 年</b>	災害のメカニズムについて関心を持ち、地域の災害の特性や防災体制について理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な判断のもと、周囲に気を配りながら身を守る行動をとることができる。	家族や友達、地域の人たちとの関わり合いを通して、有事の際には、周囲の人と助け合うとともに、他の人の役に立つ行動ができる。

## 防災教育年間計画（令和4年度）

### 目標 「自分で判断・行動し、自他の命を守る児童の育成」

- (1) 災害発生時に自他の命を守るために必要な知識及び技能を身に付ける。(知識・技能、関心)
- (2) 知識・技能をもとに自らの思考・判断を働かせ、変化していく状況に応じて適切な行動がとれる力を育成する。(思考力・判断力、主体的行動)
- (3) 地域の人や家族など、人との関わりから、絆の大切さや生命の尊さを学ばせるとともに、地域の人たちと一緒に避難訓練や避難所の設営・運営訓練をすることを通して、有事の際に協力し合い、より良い行動をとれる人間性を育む。(学びに向かう力・人間性、規範意識の醸成)

月	防災教育関連行事	教科
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難経路の確認</li> <li>・ 登下校指導</li> <li>・ 挨拶運動（地域連携）</li> <li>・ 児童自宅確認</li> </ul>	生活 学校たんけん（1年） 生活 町たんけん（2年）
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練（地震・津波）（地域と連携）</li> </ul>	社会・災害復興の願いを実現する政治（6年）
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練（火災）</li> <li>・ 防災学習会（高学年対象）</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シェイクアウト訓練</li> </ul>	生活 あそびに行こうよ（1年） 理科 雨水の流れ（4年） 体育 水泳（1～6年）
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練（不審者）</li> <li>・ 挨拶運動</li> <li>・ 防災学習会（職員・地域住民対象）</li> </ul>	社会 自然災害からくらしを守る（4年）
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シェイクアウト訓練</li> </ul>	国語 安全マップを作って話し合おう（4年）
10		国語 くらしをまもる車（1年） 理科 雲と天気の変化（5年）
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミニ避難訓練（Jアラート）</li> </ul>	理科 風のはたらき（3年） 理科 流れる水のはたらき（5年） 理科 大地のつくりと変化（6年）
12		社会 情報産業とわたしたちのくらし（5年）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練（火災）</li> </ul>	社会 くらしを守る（3年） 体育・保健 けがの防止（5年）
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シェイクアウト訓練</li> </ul>	図工 災害グッズ作り（1年） 社会 自然災害を防ぐ（5年）
3		

月	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀（1～6年）</li> <li>・規則の尊重（3年）</li> <li>・家族愛（4年）</li> <li>・節度・節制（5年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式</li> <li>・交通安全教室</li> <li>・地域の人に進んであいさつしよう（1～6年）</li> <li>・安全な登下校の仕方を覚えよう（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深浦町のことを知ろう（3年）</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節度・節制（1・2・3年）</li> <li>・生命の尊重（3・4年）</li> <li>・家族愛（5年）</li> <li>・規則の尊重（6年）</li> <li>・勤労・公共の精神（6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会</li> <li>・クラブ活動（地域の指導者）</li> <li>・安全な避難の仕方を知ろう（1～6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の環境について調べよう（4年）</li> <li>・地域を支える産業（5年）</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の尊重（1・2・5年）</li> <li>・規則の尊重（2・4年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動</li> <li>・防災かるた（1・2年）</li> <li>・防災すごろく（3・4年）</li> <li>・防災標語を作ろう（5・6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所設営の仕方を知ろう（5・6年）</li> <li>・地域の自然・歴史・文化を考えよう（6年）</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則の尊重（1年）</li> <li>・家族愛（2年）</li> <li>・生命尊重（3・6年）</li> <li>・節度・節制（4年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校遠足</li> <li>・クラブ活動</li> <li>・読み聞かせ活動（地域との連携）</li> </ul>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節度・節制（3年）</li> <li>・自主・自律（5年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重（2年）</li> <li>・礼儀（5年）</li> <li>・家族愛（6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動</li> <li>・校内マラソン大会</li> <li>・防災かるた（1・2年）</li> <li>・防災すごろく（3・4年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海中部沖地震、東日本大震災について調べよう（4年）</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則の尊重（1・2・4・6年）</li> <li>・生命の尊重（3・5・6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動</li> <li>・学習発表会</li> <li>・学活：地域の人々と交流を深めよう（3・4年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の仕事について調べよう（4年）</li> <li>・安全な町づくりとその取り組みを調べよう（5年）</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の尊重（1・2・4年）</li> <li>・家族愛（3年）</li> <li>・よりよい学校生活（5年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒設置月間</li> <li>・クラブ活動</li> <li>・地区の文化祭参加</li> <li>・学活・命を大切に（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になった人に年賀状を書こう（3～6年）</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性（3年）</li> <li>・勤労・公共の精神（3・4年）</li> <li>・相互理解・寛容（5・6年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ活動（地域との連携）</li> </ul>	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族愛（1年）</li> <li>・生命の尊重（2・4・6年）</li> <li>・勤労・公共の精神（5年）</li> </ul>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節度・節制（1・2年）</li> <li>・規則の尊重（3・5年）</li> <li>・相互理解・寛容（4・5・6年）</li> <li>・生命の尊重（5年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんおばあさんに優しくしよう（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことをまとめ、発表しよう。</li> </ul>
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業式</li> </ul>	

## 教科等横断的な防災教育の取組について

### 教科別指導計画 1 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 <small>(A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの</small>	あおり おまもりノート
国語	2	くらしをまもる車	(B) くらしをまもる車について災害に関するものも取り上げる。	
生活	1	がっこうたんけんにいこう ※実践事例 1	(B) 学校内のいろいろな場所にいるときに地震が起こったらどうするのかを考える。	p 8～9
	1	あそびにいこうよ	(B) 海で地震がおこったらどうするのかを考える。	p13～15
道徳	3	じしんがおきたら	(A) 地震発生当時の様子や避難所の人たちの苦勞を具体的に理解させる。	p22～23
図工	3	ひらめきコーナー	(B) 新聞紙や牛乳パックなどの身近な材料で災害時に活用できるグッズを考え、作成する。	

### 実践事例 1 学習指導案

学 年	1 年	
教科名	生活科	
単元名	がっこうたんけんにいこう	
指導計画 (全 11 時間)	1～3	がっこうたんけんにいこう
	4・5	みつけたことをおはなししよう
	6・7	もっとくわしくしりたいな
	8・9	みんなのはっけんをききあおう
	10・11	がっこうだいすき (本時)
本時の目標	学校生活を楽しく安心して安全に過ごすために、地震が起こったらどう行動すればよいかを考え、自分の身を守るための正しい行動を理解する。	
防災の視点	(B) 学校内のいろいろな場所にいるときに地震が起こったらどうするのかを考える。	

#### 本時の展開 (11 / 11)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学校探検を振り返り、どんな場所があったか確認する。	・児童の発見カードや写真を利用する。	・「あおりおまもりノート」 p 8～9
2 教室や特別教室で地震が起こったらどうすればよいのかを考え、発表する。	・理科室や家庭科室など、普通教室よりも危険な物が多くある場所を確認する。	
3 地震によって落ちてきたり倒れたりする物をチェックする。廊下や階段、校庭で地震が起こったらどうすればよいのかを考える。	・教師が 1 つずつ読みながら、一緒にチェックする。	
4 本時のまとめをする。	・学校にはいろいろな場所があり、その場所に合わせて自分の身を守る行動をすることが大事であることをまとめる。	



## 教科別指導計画 2 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおり おもりノート
生活	1	町たんけん ※実践事例2	(B) 学校や自宅周辺の避難場所を知る。	p 6 p14～15
算数	1	時こくと時間 長さ	(C) 津波の高さを用いて問題作成。 (C) 津波の到達時間を用いて問題作成。	
体育	2	水泳	(B) 津波の高さは体のどこまでなのかを知る。	
学活	1	地しんがおきたら (1) 地しんがおきたら (2) ※実践事例3	(A) 学校にいる時、地震が起きた場合の安全な避難の仕方を知る。 (A) 家や海、山にいる時、地震が起きた場合の行動を知る。	p12 p13
学活	2	ぼうさいかるたで あそぼう	(A) かるたを通して防災について楽しみながら学ぶ。	

### 実践事例2 学習指導案

学 年	2 年	
教科名	生活科	
単元名	町たんけん	
指導計画 (全9時間)	1～3	わたしたちの町について話そう
	4・5	町のすてきをさがそう (1)
	6・7	町のすてきをさがそう (2)
	8	作った地図をもとにたんけんしよう (本時)
	9	町のすてきをはっぴょうしよう
本時の目標	学校の周りにおける道路や公共施設やお店などを確認する。	
防災の視点	(B) 学校の周りにおける避難場所を確認する。	

#### 本時の展開 (8 / 9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 作った地図を見てどこに行くか確かめる。 ・避難場所や避難標識を確かめる。	・前回までに作った学区の地図を見る。 ・深浦町のハザードマップと探検場所を重ねて確認する。	
2 避難場所や標識を探しに行き、津波が来たらどこまで水が来るのか、どのくらいの高さの水が来るのかその場で想像する。	・避難場所や標識の位置を確認してどのような場所であるか、避難場所の建物はどのような建物だったかに注意させる。	・前回までに作った学区の地図
3 学校に戻ってから、思ったことや気付いたことをプリントに記入する。	・学区の地図に付け加える。	・深浦町のハザードマップ
4 感想を発表し、学習をまとめる。	・発言の中で具体的にどの辺まで津波が来そうなのかをとらえさせる。 ※学校の近くの避難場所と避難場所が高く広い場所であったことを押さえる。	

### 実践事例3 学習指導案

学 年	2年	
教科名	学級活動	
単元名	地震がおきたら	
指導計画 (全3時間)	1	学校にいるとき地震が起こったら
	2	学校への行き帰り道で、地震が起こったら（本時）
	3	津波から身を守ろう
本時の目標	学校への行き帰り道で地震が起きた時の危険箇所や安全な行動の仕方を知る。	
防災の視点	(A) 学校への行き帰り道で危険な場所や危険なものを確認し、安全に避難できるようにする。	
あおり おまもりノート の活用	地震から身を守ろう（外にいるときへん）p12のイラストを見て、危険箇所とその理由を話し合う。自分たちの道で同じような場所はないか確かめ、登下校中も自分で身を守る行動ができるようにする。	
ICTの活用	プレゼンテーションソフトを使ってp12のイラストを大型モニターに写し、児童から出た危険箇所に×をつける。	

#### 本時の展開（2／3）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 登下校中に大地震が起きたらどうなるか考える。 ・イラストを提示し、危険箇所を話し合う。	・落ち着いて身を守る行動をすることが大切であることを確認する。 ・あおりおまもりノート p12 のイラストの危険箇所に×をつける。	・「あおりおまもりノート」 p12 ・大型モニター
2 自分たちの通学路で似たような危険箇所がないか話し合う。	・p12のチェック欄にチェックする。	・通学路の写真
3 身を守るためにはどうすればよいか考える。	・教師が1つずつ読みながら、一緒にチェックする。	
4 シェイクアウト訓練を行う。	・身を守るための姿勢を確認する（しゃがむ、頭を守る、待つなど）。 ・外にいるときも学校にいるときと同じように身を守ることを確認する。	・シェイクアウト訓練の音源
5 振り返りをする。		

## 教科別指導計画 3 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもりノート
国語	1	見つけよう、 合図とするし	(B) 身の回りにある合図とするしについて災害に関するものも取り上げる。	
	2	校内放送を 聞き取ろう	(B) 災害関係の放送を例にし、自分にとって必要な情報を聞き取る。	
社会	2	くらしを守る ・消防の仕事 ・消防団の取り組み	(A) 災害時の備えや対応について、必要な情報を集め、関係機関や地域に人々の諸活動を考える。	
	3	市のうつりかわり	(B) 人々のくらしの移り変わりとともに、過去に起こった災害について知る。	
算数	1	表とグラフ	(B) 災害のグラフを取り上げ、災害の多さに気づく。	
理科	2	風のはたらき	(A) 風の力は、物を動かし、風の力の大きさを変えると物が動く様子も変わることを理解し、自然災害との関係を考える。	p16～19
道徳	2	心をつないだ合言葉 ※実践事例 4	(A) どんな状況の時でも、前向きにみんなと協力して主体的に働こうとする心情を育てる。	p22～23
学活	1	地震が起きたら ※実践事例 5	(A) 津波が想定される場合の避難の仕方を知る。避難所における過ごし方を知る。	p10～11
	2	防災かるたで遊ぼう	(A) 防災かるたを通して、防災に関する知識を知る。	

### 実践事例 4 学習指導案

学 年	3 年
教科名	道徳
単元名	心をつないだ合言葉
指導計画 (全 1 時間)	1 青森県で起こるかもしれない災害 (本時)
本時の目標	青森県で起こるかもしれない災害について知り、それに対する備えをについて話し合う。
防災の視点	(A) どんな状況の時でも、前向きにみんなと協力して主体的に働こうとする心情を育てる。

#### 本時の展開 (1 / 1)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 今の神戸と大地震のときの写真を比べる。	・大地震の時神戸の人たちは、どんな気持ちで生活していたか考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の写真</li> <li>・あおりおまもりノート</li> </ul>
2 教材を読み、ふるさとと災害について考える。	・もし、災害が起きたらどうするか自分に置き換えて考えさせる。	
3 青森県で起こるかもしれない災害について知る。	※災害に伴って、生活がどうなるか考えさせる。	
4 本時のまとめをする。	・災害について知り、それに対する備えをすることが大切だということをまとめる。	

## 実践事例5 学習指導案

学 年	3年
教科名	学級活動
単元名	地震が起きたら
指導計画 (全3時間)	1 学校にいるとき地震が起きたら・登下校中に地震が起きたら
	2 家にいるとき地震が起きたら (本時)
	3 海や山にいるときに地震が起きたら
本時の目標	家にいるときに地震が起きた時の危険箇所や安全な行動の仕方を知ろう
防災の視点	(A) 家の中の危険な場所や危険なものを確認し、減災に努めるとともに、安全に避難できるようにする。
あおり おまもりノート の活用	地震から身を守ろう (家庭編) p 10～11 のイラストを見て、危険な箇所とその理由を話し合う。身の守り方を知り、どこにいても安全を考えた行動ができるようにする。
ICTの活用	プレゼンテーションソフトを使って、イラストを大型モニターに映し、話し合った後に○か×を表示する。

### 本時の展開 (2 / 3)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 もし、家に一人にいるときに地震が起きたらどうなるか予想する。 ・イラストを見ながら、家の中の危険箇所を話し合う。	・自分で判断し、行動することが大切であることを教える。 ・ワークシートを用意し、危険なものに×をつけ、正しい行動をしている子供に○をつけさせる。	・「あおりおまもりノート」 p10 ・大型モニター ・プレゼンテーションソフト
2 身を守るためにはどうすればよいか考える。	・身を守るための姿勢を確認する。(姿勢を低く、頭を守るなど)	
3 トイレやふろにいるときに地震が起きたらどう対処すればよいかを話し合う。	・自分の家の周りの地形を考えて、どこに逃げればよいか、避難所はどこかなど、家の人と前もって話し合っておくことが必要であることを知らせる。	
4 シェイクアウト訓練の方法を知る。 ・シェイクアウト訓練を行う。		・シェイクアウト訓練の音源
5 津波の危険があるときは、どうすればよいか話し合う。		・各地区のハザードマップ
6 学習して分かったこと、自分で気を付けることをまとめる。		

## 教科別指導計画 4 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもりノート
国語	1	見学したことを新聞にまとめよう	(B) 新聞づくりをする際に、災害に関する記事も参考に取り上げ、書き手の意図が伝わる新聞の作り方を知る。	
	2	安全マップを作って話し合おう	(A) ハザードマップ等をもとに、災害が起きた場合（津波）の危険な場所を確認し、安全に避難する方法を話し合う。	p14～15
社会	2	自然災害からくらしを守る ※実践事例6	(A) 過去に発生した地域の自然災害や、災害から人々を守る活動について調べ、自分たちにできることを考える。	p24～27
算数	2	がい数とその計算	(B) 自然災害の資料を取り上げ、概数に表すことで災害の大きさに気づく。	
理科	1	雨水の流れ	(A) 雨水の行方と地面の様子についての事象・現象を知り、自然災害との関係を考える。	
道徳	1	神戸のふっこうは、ぼくらの手で ※実践事例7	(A) どんな状況の時でも、自分の役割を自覚し、みんなと協力して主体的に働こうとする心情を育てる。	p27

### 実践事例6 学習指導案

学 年	4 年	
教科名	社会	
単元名	自然災害からくらしを守る～地震からくらしを守る	
指導計画 (全 10 時間)	1	オリエンテーション
	2	地震が起きたら
	3	地震とわたしたちの生活
	4	家庭でそなえているもの
	5	学校や通学路でそなえているもの
	6	市の取り組み
	7	市と住民の協力
	8	住民どうしの協力
	9	地震からくらしを守る取り組みをまとめる
	10	ひなん所シミュレーション (本時)
本時の目標	学校が避難所になった時に自分だったらどうするかを考えたり、友達の考えを聞いたりする活動を通して、いろいろな立場の人たちと協力していくことの大切さを考えようとする。	
防災の視点	(A) 避難所ではいろいろな立場の人たちと協力し合うことの大切さを理解する。	

本時の展開 (10 / 10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 地震が起きて、学校が避難所になった場合、みんなで助け合う「共助」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったらどうするか考えさせる。</li> <li>具体的な場面での問題を提示し、自分の考えを「はい」「いいえ」でしっかり示し、その理由を言わせる。また、友達の考えをしっかり聞き、自分の考えに生かすようにさせる。</li> </ul> ※いろいろな立場、意見があることを理解し、助け合いの大切さを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「避難所シミュレーションゲーム」問題カード、「はい」「いいえ」カード(グループ分、人数分)</li> </ul>
2 シミュレーションゲームのやり方の説明を聞き、例題を解く。		
3 避難所で起こる問題について、自分はどうか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>職員「弁当を配布するか。」</li> <li>住民「ペットを連れていくか。」</li> <li>住民「公民館に行くか。」</li> <li>4年生「外に逃げるか。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所では、いろいろな立場の人たちと協力していくことや役割分担することが大切であることをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p27「避難所で自分たちができること」</li> </ul>
4 本時のまとめをする。		

実践事例7 学習指導案

学 年	4年
教科名	道徳
単元名	神戸のふっこうは、ぼくらの手で
指導計画(全1時間)	1 みんなのためにできることを考えよう (本時)
本時の目標	どんな状況のときでも、自分の役割を自覚し、社会に対する奉仕や公共の精神を持ち、人々の役に立つ喜びを味わい、主体的に働こうとする心情を育てる。
防災の視点	(A) 避難所において自分にできることを考え、進んでみんなのために働こうとする気持ちを持つことができる。

本時の展開 (1 / 1)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 地震、津波、大雪など様々な災害の写真や避難所の写真を見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の様子、避難している人々の様子を見て、当時の様子をしっかりと想像させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害画像</li> </ul>
2 教材「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読み、主人公の「ぼく」の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなのために黙々とがんばる人の姿をみつめる「ぼく」に共感させながら、その心情を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」(新・みんなの道徳4年 学研)</li> </ul>
3 「ぼく」が、みんなのために行動できたのは、どんな思いからか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人のために働くことの大切さ、自分が役に立ったことのうれしさに気づかせる。</li> </ul>	
4 災害に遭い、避難生活を送らなければならなくなったら、自分たちに何ができるか、考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あおりおまもりノート」に書き込み、自分たちができることについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおりおまもりノート p27「避難所で自分たちができること」</li> </ul>
5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返り、考えたことを発表する。</li> </ul>	

## 教科別指導計画 5 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもりノート
国語	2	新聞の情報を 読み取ろう	(B) 新聞記事を読み比べる際、災害に関する記事を取り上げる。	
社会	3	情報産業とわたしたちの暮らし	(A) 放送などの情報産業は、災害が起きた場合にどんな役割を果たしているか考える。	p22～23
社会	3	自然災害を防ぐ ※実践事例 8	(A) 自然災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて理解する。	p4～7
算数	3	割合をグラフに表そう	(B) 自然災害に関するアンケート結果を帯グラフや円グラフに整理する活動を行う。	
理科	1	雲と天気の変化	(A) 台風の動きや台風による被害について調べる。	
理科	2	流れる水のはたらき	(A) 川の水が増えるとどのような災害が起きるか、また、どのような対策が行われているか調べる。	
体育	1	水泳運動	(A) 安全確保につながる動きができるようになる。	
体育	2	保健 けがの防止	(A) 地震がきたらどんなけがをする可能性があるか考え、その防止について考える。	p8～13
家庭	1	できるよ 家庭の仕事	(B) 家庭で実践しようというコーナーで災害時に持ち出す物を準備するとよいことを知る。	p32
家庭	2	食べて元気に	(B) 災害時の炊き出しでは、よくおにぎりやみそ汁が作られることを知る。	
総合	2	災害が起きたら ※実践事例 9	(A) 避難所で、健康に気を付けて過ごすための方法や、自分達にできることを考える。	p26～27

## 実践事例 8 学習指導案

学 年	5 年
教科名	社会
単元名	自然災害を防ぐ
指導計画 (全 5 時間)	1 自然災害が多い日本の国土
	2 地震災害への取り組み
	3 津波災害への取り組み (本時)
	4 風水害への取り組み
	5 火山の噴火や大雪への取り組み
本時の目標	津波災害が起こる仕組みや、被害を減らすための取り組みについて理解する。
防災の視点	(A) 自然災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて理解する。

### 本時の展開 (3 / 5)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 日本で津波が起きる理由を資料から読み取って話し合う。	・津波の被害の大きさを読み取らせる。	・教科書、資料集、三陸はるか沖地震や日本海中部地震の画像

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
2 大津波による被害を減らすために、各都道府県や深浦町ではどのような取組を行っているのか読み取り、話し合う。	(A) 自然災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて理解する。	・あおりおまもりノート p4～7
3 津波記念碑が残されているのはなぜか考え、話し合う。	・昔から日本では津波からの被害を減らそうとする人の努力があったことを考えさせる。	

## 実践事例9 学習指導案

学年	5年	
教科名	総合的な学習の時間	
単元名	災害が起きたら	
指導計画 (全10時間)	1	オリエンテーション
	2	避難所の設営方法
	3	避難所の設営リハーサル
	4	避難所の設営
	5	避難所での過ごし方と自分達でできること
	6・7	避難してから自分達でできることを試す
	8・9	避難してから自分達でできることをまとめる(本時)
	10	発表とまとめ
本時の目標	避難所での過ごし方と、避難所で自分達ができることを理解する。	
防災の視点	(A) 避難所で、健康に気を付けて過ごすための方法や、自分達にできることを考える。	
あおりおまもりノート の活用	p26「避難所での過ごし方」 p27「避難所で自分たちができること」	
ICTの活用	児童が発表資料をパワーポイントや動画で作成、発表	

### 本時の展開(8・9/10)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 避難してからの生活を想像する。	・水、電気などが使えなくなった時のことを想定させ、暑さ、寒さ、明かり、トイレなど様々な問題が起こることをとらえさせる。	・あおりおまもりノート p26「避難所での過ごし方」 p27「避難所で自分たちができること」
2 避難所での過ごし方を知る。	・感染症の予防、暑さ・寒さをしのぐための工夫を考えさせる。	
3 避難所で自分達ができることを知る。	・大勢の人と一緒に過ごすために必要なマナーを考えさせる。	・NHK「つくってまもろう」のweb上に、たくさんの防災アイデアが掲載されている。
4 その他にも自分達でできることはないか調べる。 ・ペットボトルランタン ・牛乳パックで食器作り ・災害用トイレ など	・本やインターネットを使って、災害時にあると便利な物作りについて調べさせる。	



## 教科別指導計画 6 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもりノート
国語	3	パネルディスカッションをしよう ※実践事例 10	(B) 地域が協力して取り組む必要があることを捉えさせるようにする。	
国語	3	国境なき大陸 南極	(B) 地球温暖化に関わって異常気象による災害が増加することを知る。	p20～21
理科	2	大地のつくりと変化 地震による大地の変化	(A) 地震のしくみと被害の様子を伝える。 (A) 地震の後には津波が来るということを確認する。	
社会	1	わたしたちの生活と政治 震災復興の願いを実現する政治 ※実践事例 11	(A) 災害時の政治の働きと東日本大震災の被害や復興までの取り組み等について学習する。 (A) これからに向けたまちづくりについて考える。	p4～5 p28～31
家庭	3	共に生きる地域での生活	(B) 地域でできる活動として、防災訓練を行っていることを取り上げる。	

### 実践事例 10 学習指導案

学 年	6 年	
教科名	国語	
単元名	パネルディスカッションをしよう	
指導計画 (全3時間)	1	パネルディスカッションの進め方を理解する
	2	テーマを決め、準備をする
	3	パネルディスカッションをする (本時)
本時の目標	防災意識を高めるために何ができるのかを考える。	
防災の視点	(B) 地域が協力して取り組む必要があることを捉えさせるようにする。	

#### 本時の展開 (3 / 3)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 本時のテーマを確認する。	・地域にはいろいろな人たちがいる (経験、考え方等) ことを確認する。	
2 パネルディスカッションを行い、パネラーやフロアーの意見を交流させる。	※広報活動はもちろん、地域の人たちがつながり合う関係を築くことも大切なことに気付かせる。	・他地域の取組の映像や写真
3 防災意識を高めるために自分たちに何ができるのかを改めて考え、発表させる。	・他の意見を取り入れ、広く考えられるよう助言する。	
4 本時のまとめをする。	・防災意識を高めるためには、地域一丸なった取り組みが必要であることを確認する。	

## 実践事例 11 学習指導案

学 年	6年	
教科名	社会	
単元名	震災復興の願いを実現する政治	
指導計画 (全7時間)	1	東日本大震災の発生（本時）
	2	東日本大震災への緊急対応
	3	復旧・復興に向けた国の支援
	4	復興を願う市や市民の取り組み
	5	これからに向けたまちづくり
	6	まとめ～東日本大震災について調べてきたことをレポートにまとめ、これからのまちづくりについて話し合う。
	7	生かす～公園づくりについて話し合う。
本時の目標	東日本大震災についての写真や資料から何が起こりどんな影響があったのかを知る。	
防災の視点	(A) 過去に起きた地震による津波の災害を知り、安全に避難することや災害への対策を考えようとする。	
あおもり おまもりノート の活用	p 4～5 「青森県で起こりうる災害を知ろう」 p 28～31 「実例から学ぼう東日本大震災」	

### 本時の展開（1 / 7）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 宮城県気仙沼市で発生した津波の被害について知る。	・ 港の様子から被害の大きさを考える。	・ 教科書やインターネット ・ あおもりおまもりノート p28～31 「実例から学ぼう東日本大震災」
2 震源地を知る。	・ 地震によって引き起こされた災害であり、海岸の近くでは地震が起きた場合は津波の災害も考えなければならないことを知らせる。	
3 災害にあった人たちはどのような影響を受けたのか具体的に考える。	・ 住む場所、生活するための糧、 漁業の観点から考える。	
4 現在の気仙沼市の様子と比べて学習課題を作る。		

## 外部専門家の活用について

### 東日本大震災の経験者による講演

日時 令和4年5月26日(木) 10:50～11:50 (総合防災訓練終了後)

会場 北金ヶ沢総合防災センター

講演 「いのちてんでんこ」

講師 菊池 のどか 氏 (株式会社8 kurasu)

岩手県釜石市出身。岩手県立大学総合政策学部卒、2021年5月より現職。

釜石東中学校3年時、東日本大震災に遭遇し小学生と共に避難した経験等を基に、2019年4月から同市の津波伝承施設「いのちをつなぐ未来館」の職員として語り部を行った。

#### 講演要旨

東日本大震災の時、私は中学3年生でした。3月11日はとても寒い日でした。午後2時46分、私は校舎外の電話ボックスの所にいたら突然、地鳴りのような音がして、大きく揺れました。鶴住居小学校の校庭にはその時点で子どもの姿が見えなかったので、校舎に向かって「逃げろ!」「津波来るぞ!」と叫んでから逃げました。

当時、私が「津波が来る!」と思った3つのポイントがあります。

1. 地震の音が大きかったこと
2. 地震が横揺れだったこと
3. 地震が1分以上と長かったこと

学校から避難場所まで一生懸命に走りました。学校を出発して200mのところで大津波警報のサイレンが鳴りました。800m離れた最初の避難先(ございしょの里:写真1)は海拔4mで、副校長先生の指示で更に300m離れた避難先(やまざきデイサービス)へ小学生と手を繋ぎながら逃げました(写真2)。

デイサービス到着直後、「ゴーツ」という大きな音が空から聞こえ、同時に地面が揺れました。津波で浮いた家と家がぶつかる音が響きました(写真3)。隣町では火災が発生し、パニック状態になる人もたくさんいました。私たちは更に高台を目指して逃げました。

その後、9km離れた所に避難所が開設されたと情報が入り、避難所を目指して歩きました。約6km歩くとトラックが来て運んでくれました(写真4)。この時の運転手さんの「生きてて良かったな」「ちゃんと生きんだぞ」という言葉が胸を打ち、今でも忘れられません。

震災前から防災教育に力を入れていたということで、震災後には「釜石の奇跡」と称されることとなりましたが、私自身は初めから防災教育に熱心だったかと言えば、必ずしもそうではありませんでした。中学校入学当初は、毎日当たり前に過ごせるのにどうして防災学習をやらなくてはならないのかと、取組には消極的でした。防災学習への意識が変わり始めたのは2年生で行ったロープワークの実習(写真5)でした。先生も一緒になって行ったのですが、先生よりも生徒の方が上達が早く、先生でもできないことがあるんだと思い、その時から防災学習が楽しいと思えるようになったと記憶しています。



防災学習に取り組むにつれて、自分は家族や地域の人々から愛されている存在であるという気付きが生まれ、愛されているからこそ死ねない・死んでほしくないという思いになっていきました。そのような意識の中で東日本大震災に遭遇することとなったのです。

釜石東中学校で行った防災学習が、なぜ生徒や地域に浸透したのか、私なりに考えたポイントが以下のとおりです。

1. 先生が失敗する姿を見せてくれたこと
2. 一緒に考えてくれたこと
3. 話し合う時間を多くとってくれたこと
4. 地域の人が協力してくれたこと
5. 自分が愛されていることに気付けたこと
6. 震災を知らなかったからこそその自由な発想、プラス思考ができたこと

7. その時はわからないが、いつか役に立つものと考えられたこと  
 東日本大震災当時、私は、災害は“いつか”来るとは思っていました。しかし、それが“今日”だとは思いませんでした。今日来ると分かっていたならば、皆さんはどうしますか。きっと自分の生活や行動をより良いものにしようとするのではないのでしょうか。次の災害に備え、今からできることを頑張りましょう。

最後に、私が皆さんに伝えたいことは、「地域の人にあいさつをしましょう」「自分の街をよく知りましょう」ということです。私自身も地域のフィールドワーク（写真6）や安否札の配布（写真7）などの活動を通して地域の人とふれ合う中で、自分が地域からすごく大事にされていると思うことが増えました。きっと皆さんの家族や周りの方は、皆さんのことをとても大切に思っています。これからも人とのつながりを大切にして、思いやりのある人になってほしいと願っています。



5



6



7



## 大学教授による出前授業

日時 令和4年11月24日(木) 3・4校時  
会場 深浦町立修道小学校 体育館  
講演 「修道小学校の周りの地形を知って災害に備えよう」  
講師 小岩 直人 氏 (弘前大学教育学部 教授)  
弘前大学教育学部 学生4名



### 内容

- ① 修道小学校周辺の地形について
- ② 津波の仕組みや恐ろしさについて
- ③ 津波が来た時の避難について
- ④ 地図に色を塗って、学校周辺の標高を確かめる活動



⑤ 3Dメガネを使用した学区を立体的にとらえる活動



児童の感想

**6年**

深浦町は海が近く、津波が来たら危ないんだなあと思いました。海から20 m以上の場所だと9割くらい助かると分かりました。北金ヶ沢の漁港は2 mしか高さがなく、自分の家も海が近いので、いざという時に逃げる場所を家族と話したいです。ハザードマップに色を塗った時、こんなに海が近いと危ないんだなあと思いました。

深浦町は山・川・海がそろっていて自然が豊かだけど、災害の被害が大きいから危険がたくさんあると思いました。自分が生きている間に大きな災害があるかわからないけど、もっと勉強して、いつ災害が来てもいいように備えたいです。

**4年**

津波は普通の波とは違うことが分かりました。修道小学校の標高は6 mで、大きな津波が来たら大変だと分かりました。防災センターは標高が25 mだから、結構安全だと分かりました。

自分の家はかなり海に近いので、逃げるための準備をしておかないといけないと思いました。これからは災害対策をもっと強化したいです。

**2年**

防災の話を聞いて、どこが一番危ないか、何分で津波が来るかなどが分かりました。津波に遭ったことがないから、話を聞いて初めて津波の怖さを知りました。もし津波が来たら高い所にすぐ逃げるようにしたいと思いました。5 mほどのくらいの高さか教わった時、自分の思っていた高さよりも高かったのでびっくりしました。

# 地域と連携した防災訓練について

## 1 目的

- 地震・津波が発生した場合の避難の仕方・避難経路を確認し、安全な避難できるようにする。
- 避難所設営訓練を地域住民と一緒にを行うことを通して、災害発生時の対処や必要な行動を理解する。
- 東日本大震災を経験した方のお話を地域住民と一緒に聞くことにより、防災への意識を高め、共に協力し合って災害に立ち向かうことの大切さを知る。

## 2 訓練実施日時等

(1) 実施日時 令和4年5月26日(木) 10:00～12:10

(2) スケジュール

時間	
10:00～10:40	避難訓練、避難所設営訓練
10:50～11:50	講演(菊池のどか氏)
11:50～12:00	質疑応答、児童からお礼の言葉
12:00～12:05	自治会長、校長から一言
12:05～12:15	非常食をもらって解散

※関地区の住民は、関の甕杉前から防災センターまで町のバスで送迎する。

## 3 訓練会場 北金ヶ沢総合防災センター

## 4 災害想定 日本海沖で地震発生、津波警報が発令。10分後に津波が襲来する予想。 北金ヶ沢防災センターへ避難する。

## 5 避難訓練時の職員の役割分担

本部	校長
非常ベル・放送	教頭
残留児童確認	1階(教員)・2階(教員)・3階(教員)
非常用持ち出し	(教員)
救護(救急箱準備)	(教員)
児童誘導と掌握・確認	学級担任又は授業者
雑巾等の準備・片付け	(教員)

## 6 避難所設営訓練時の役割分担

全体統括	校長
本部担当	教頭
受付担当	(教員2名)
体育館担当	(教員2名)
外担当	(教員4名)
館内担当(→体育館)	(教員)
1～4年児童掌握	(教員3名)
写真撮影・計時・記録	(教員2名)

## 7 検証

今回の避難所設営訓練につなげるための、反省と評価をしっかりと行う。

- ・事後の振り返り・反省と評価を児童・教職員で行う。
- ・外部の評価委員を設け、全体の流れや個々の活動について評価いただく。  
(教育委員会、地域住民、見学に来ていただいた学校関係者等)

## 8 避難所開設シミュレーション

時刻	担当	実施内容
10:00 10:01	教頭	町の防災無線 「訓練、訓練。地震が発生しました。皆さん、身を守る行動をとって下さい」
10:02	教頭	「揺れが収まりました。ただいま、青森県日本海沖で地震が発生、津波警報が出ました。児童の皆さん及び職員は、防災センターへの避難を開始してください。」(2回繰り返す)
	職員	防災マニュアルに則って、それぞれの役割を遂行する。
	児童	静かに避難行動を開始する。必要に応じて上着を持つ。内履きズックのまま。体育館非常口⇒武田歯科前⇒北金ヶ沢防災センター
10:07	児童	北金ヶ沢防災センター 駐車場に到着。
	学担	校長に人員報告。
	校長	全員避難を確認する。防災センターの鍵を開ける。
	高学年学担	5・6年児童に、ビブスを着用させる。
	地域住民	北金ヶ沢地区住民 防災センター集合。自治会長さんも。関地区住民 関の甕杉前広場に集合。(町のバスで防災センターへ)めぐみこども園 園児、職員避難完了。
10:10	本部児童 ※ハンド マイク	玄関先で「これから避難所設営訓練を始めます。5・6年生は、アクションカードをもとに、それぞれの活動に入ってください。1～4年生の皆さん、地域の皆さんは、こちらで静かに並んで待ってください。」
	高学年児童	5つのチームに分かれて活動を開始する。
	教員	・1～4年の児童掌握、それぞれの担当チームの補佐に入る。 ・要支援者等の役割の児童にビブスを着せる。
	地域住民	1～4年と共に待機。各自治会の方数名は、本部へ行き、仕事の割り当てを確認。児童とともに避難所設営の準備にあたる。

### アクションカード (Aカード) を活用した避難所開設訓練

担当人数	児童1 教員1	児童5 教員3, 地域2	児童4 教員2	児童6 教員2, 地域2	児童10 教2, 地域2
時刻	本部	屋外担当	館内担当	体育館担当	受付担当
10:10	避難所設立訓練開始を告げる				
	各チームは、それぞれ避難所運営ボックスを準備する				
	<b>Aカード0</b> ①事務室入り口に「本部」、「アクションカード進捗確認表」貼付  (子ども・教員：地区の役員の方に、仕事の内容を割り当てる)  ②各アクションカードの活動終了の報告を受け	<b>Aカード1</b> (1名) ①避難してくる人を玄関前に待機させる ※ハンドマイク(避難終了まで続ける) ・体調の悪い人がいないか確認する(問診) <b>Aカード2</b> (2名) ①駐車場の整理	<b>Aカード4</b> ①館内の被災箇所チェック(2名) ②ライフラインの確認(2名) ↓ 被災箇所チェックシート記入 ライフライン確認シート記入 「立ち入り禁止」、「危険」の札を貼る	<b>Aカード6</b> ①居場所を区切る ・マットを敷く ・椅子を並べる ②地区名を書いた看板を貼る ③誘導の仕方を確認する	<b>Aカード8</b> (2名) ①受付の準備をする 長机2、名簿4部、筆記用具 ②立て看板設置 避難所受付 ③本部に報告  <b>Aカード9</b> (1名) 要配慮者受付の



	<p>て、進捗確認表に記録する。</p> <p>③早く終わったチームには、体育館へ行って手伝えることを指示する。</p>	<p>誘導灯 カラーコーン (避難が終わったら、館内に入り、他児童と合流する。)</p> <p><b>Aカード3</b> (2名)</p> <p>①建物被災箇所のチェック ・危険箇所に札を貼る</p> <p>②本部に報告をする</p>	<p><b>Aカード5</b> (全員)</p> <p>①利用範囲の札の表示 「要配慮者室」の入り口に貼る</p> <p>②部屋の中にシエルマットを敷く</p> <p>③本部に準備ができたことを報告</p>	<p>④本部に準備ができたことを報告</p>	<p>準備、待機、誘導。バインダー、名簿、筆記用具</p> <p><b>Aカード10</b> (7名)</p> <p>※準備でき次第すぐに開始</p> <p>検温(2名) ・検温する</p> <p>振り分け(1名) ・感染が疑われる人の隔離</p> <p>・要配慮者の移動</p> <p>手指消毒(2名) レジ袋配布(2名)</p>
10:25	<p><b>【本部】 Aカード1に、受付開始の指示を出す。</b></p>				
10:40	<p>受付終了を指示</p> <p><b>Aカード0</b></p> <p>④体育館へ行き、避難所設営訓練の終了を宣言する</p>	<p><b>Aカード1</b></p> <p>受付開始を避難者へ告げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要配慮者は玄関から</li> <li>・他は混雑しないようアリーナ玄関から中に入るよう指示する</li> </ul>		<p><b>Aカード7</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付を済ませた避難者を誘導する</li> </ul> <p>・時間内にできなかった地域の方を体育館内に案内する</p>	<p><b>Aカード10</b>の児童は、仕事の合間に、誘導・受付案内の声をかける</p> <p><b>Aカード8</b></p> <p>受付場所で、地域名と名前を記入してもらう</p> <p><b>Aカード9</b></p> <p>訓練終了を告げ、体育館への移動を促す (10:35)</p> <p><b>Aカード8</b></p> <p>受付せず、中に入るよう避難者に促す(10:40)</p>
	<p><b>【本部】 避難所設営訓練の終了を宣言する。</b></p>				

## 避難所設営訓練終了後

時刻	担当	実施内容
10:50	教頭	講師紹介（校長）
10:55		講演 講演時の教職員の居場所～児童と一緒に 北金ヶ沢地区（教員8名） 関地区（教員7名）
11:45		質疑応答、お礼の言葉（6年児童）
11:55	深浦町 防災担当	非常食についてのお話…役場の方から一言 非常食の配布
12:10		避難所運営ボックスの片付け 解散 関地区住民参加者、町のバスで帰宅。

## 総合防災訓練後の振り返り

～児童の感想～

- ・お話を聞いて、逃げ方や大地震の時にどういうことが起きるかがよく分かり、自分に何ができるか考えました。
- ・津波のにおいが生臭いなんて知りませんでした。津波に音があるなんて知りませんでした。
- ・5・6年生が真剣にみんなのために係の仕事をがんばっていたのでいいと思いました。わたしも5・6年生になったら、みんなのために係の仕事をしっかりできるといいなと思いました。いざというときのために、もっともっと避難訓練をやりたいです。みんなの命を守ってみたいです。
- ・「いのちてんでんこ」を聞いて手本にして、これからも災害があったら避難所に避難したいです。
- ・お年寄りを守れる行動をしたいです。
- ・近所付き合いも大切だと思いました。
- ・講師の先生のお話を聞いて、わたしはもっと命を大事にしようと思いました。
- ・講師の先生のお話を聞いて、どんなにつらかったか、悲しかったか、地震が起きたらどんな行動をとったらいいかなど、いろいろなことがたくさん分かりました。そのほかに、生活していく上で、お母さん、お父さんにしっかりと日ごろの感謝などを伝えていくことも大切だと分かりました。

### ●アクションカードを元に避難所を設営してみてどうだったか

- ・しっかりと自分から動いて設営できました。本当の地震や津波の時、食料チェック、飲み水のチェックをしてみんなの役に立ちたいです。
- ・アクションカードがあると、とっても活動しやすかったです。
- ・先生がなくても協力してテーブルを運ぶことができたのでよかったです。5年生もしっかり活動できていたので来年もがんばってほしいです。
- ・誘導は耳が遠い人には聞き取りにくそうだったから、もっと伝わる声で言いたい。
- ・ちがう係もやってみたい。
- ・本当に災害があったときも、今のようにしたいです。進んで手伝いたいです。

### ●教職員の感想、次年度に向けた改善点など

- ・訓練も繰り返すごとに定着していくと思います。意外に子ども達の動き、地域の動き（協力する姿）がとてもよかったと思います。
- ・2回目の設営訓練をしてここまでできれば合格ではないかなあと感じました。反省点としては、受付や誘導の児童があまり大きな声を出せなかったことがあげられます。進んで声をかけられる子が少ないなあと感じました。（だんだんと上手にはなってきたのですが。）
- ・5・6年の係の子ががんばっていました。それを見て「やってみたい。」「がんばっていた。」という感想を低学年で持っていた子もいました。
- ・地域の方が協力的でした。受付の手伝いに大人（地域）が来てくれ、一緒に活動してくれてよかったと思いました。
- ・放送関係（マイク等）が避難所に備えつけてあればよいと思いました。ハンドマイクは必要だと思いました。

# 地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

## 協議会出席者

所 属	役 職	備 考
修道小学校	校長、教頭、防災教育担当	研究指定校
大戸瀬中学校	教頭	研究指定校の周辺校
深浦町教育委員会教育課	課長補佐	所管の教育委員会
深浦町総務課	主査、危機管理専門員	所管の防災担当部局
地域の自主防災組織（北金ヶ沢、関）	自治会長	地域の関係者
弘前大学教育学部	教授	外部有識者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長	外部専門家
青森県防災士会	青森支部長	外部専門家
西北教育事務所	指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

## 第1回検討協議会

日 時：令和4年2月7日（月）14：00～15：30

場 所：深浦町立修道小学校 会議室

内 容：5月26日総合防災訓練概要案の検討

（右図 配布資料参照）

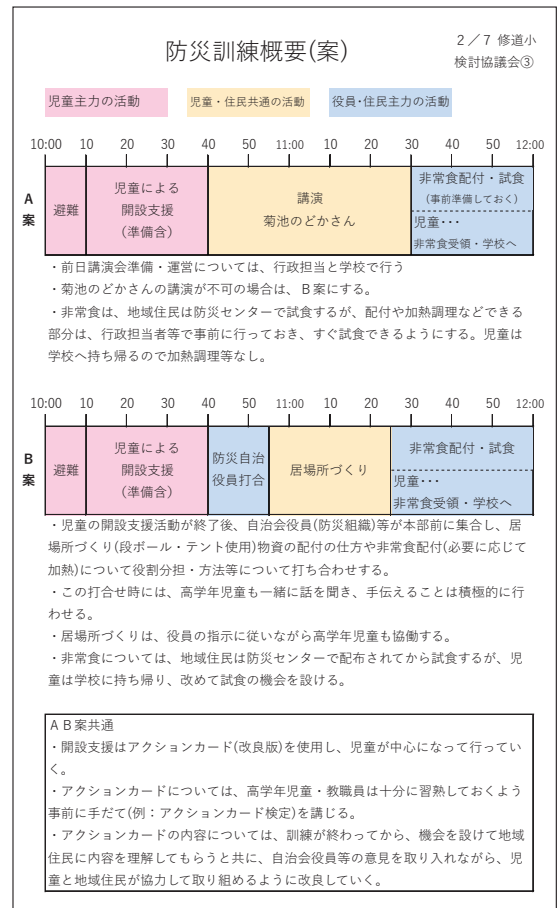
## 協議内容

〔教頭：総合防災訓練概要（案）説明〕

- ・ A案で実施。
- ・ 児童は10：00から避難開始。
- ・ 10：10～10：40に児童による開設支援（アクションカードの活用）を行う。
- ・ 菊池のどか氏の講演を児童と地域の方とともに聴講する。  
→会場設営は、参加者（高齢者等）に配慮する必要有り。
- ・ 11：30～非常食配布を行う。児童は給食があるため、調理はせずに持ち帰る。後日、防災学習で活用する予定。
- ・ アクションカードについては、今年度の課題を反映させた改良版を作成する予定。
- ・ 子どもたちが楽しみながら学ぶことができるように工夫（例：アクションカード検定）し、児童・教職員への共通理解を図る。また、地域の方の意見を取り入れる機会を設けるなど地域と一緒に改善していきたい。

〔日本赤十字社青森県支部〕

- ・ カードの内容（行動）をつなぐ部分が必要。
- ・ 表現については、誰が読んでも分かる言葉、非常時に伝わる表現であるといので、小学校2年生くらいのレベルで書かれているとよいと思う。
- ・ カードの内容について、児童・教職員ともに読み合わせを行うとよい。
- ・ 避難所へ来た人たちが、ここで何をしているのか一目で分かるような掲示物が必要。その掲示物を普段から児童の目の留まる場所に掲示することで、防災学習や避難所運営について関心をもちさせることにつながる。同じ掲示物が学校にも避難所にもあると非常時の行動につながりやすい。



[青森県防災士会]

- ・現5年生が6年生となりリーダーとなるだろう。5月の訓練で終わってしまうとリーダーとしての役割を経験できないことが考えられるので、継続が大事。月に一回など話合いの回数を増やして理解を深めるようにするなど、そうした点を踏まえた防災学習の機会を設けることが必要ではないか。

[修道小学校]

- ・訓練後も地域と共に子どもたちの意識を向上させる計画を立てていきたいと思う。

[深浦町総務課]

- ・深浦町では、毎年5月26日に総合防災訓練を実施。
- ・毎年皆さんが携わっていくことで訓練に参加する機会を作ることができる。児童が開設する部分も、地域の方々への理解を進めることで協働になっていく。地域の方と一緒に開設できるようにしていくのが良いのではと考えている。

[修道小学校]

- ・改良版として作ったアクションカードを使って次回やってみる。
- ・前回の訓練の時には、地域の役員の方々がお手伝いしていたので、次回もそのような形で地域の役員の方々に協力していただきたい。
- ・訓練を通してアクションカードの改善点が見えてくると思うので、それを参考に防災訓練を改善していければいいと思っている。
- ・来年の防災訓練後に、一緒に活動をより良くするための話し合いの機会が設けられればいいと考えている。

[司会]

- ・令和3年10月の地域と連携した防災訓練後の地域の方々の意見等はどのようなものだったか。

[自治会長]

- ・実際に防災センターに何があるか分からないという声があった。
- ・5月26日に、みんなに訓練等を実際に見せることで効果はあると思う。実際に歩いて防災センターへ避難できる人は、前回参加した30名くらい。多くの地域住民は、お年を召した方が多く、センターまで歩いて行くのは厳しい。
- ・当日、スクールバスを待機させる等、高齢者への対応も考えていくことも大切では？
- ・一人でも多くの方がこの訓練に参加できることを検討してほしい。

[深浦町教育委員会]

- ・お孫さんがいる方は、バスがあれば参加する可能性もあると思う。参加するには、高齢者の方にも目的などがあればいい。

[司会]

- ・5月26日にスクールバスを使用するのは可能か？

[深浦町教育委員会]

- ・教育活動に使用するのであれば可能である。

[深浦町総務課]

- ・非常食は、北金ヶ沢防災センターに備蓄している物を利用するのか？

[修道小学校]

- ・町の危機管理専門員からは、北金ヶ沢防災センターに備蓄している非常食を使用しても構わないということを知っていた。

[深浦町総務課]

- ・例年、総合防災訓練では炊き出し訓練を実施。コロナの感染予防対策が必要なので、個別にやるものがメインになってしまう。理想は協力してやれるものだが。

[深浦町教育委員会]

- ・児童の給食はどうするか？（⇒食べる。非常食は持たせる。）
- ・講演は防災センターで行うのか？（⇒防災センターで行う。）

- ・講演をやるとなれば、避難所のレイアウトも考える必要があるのではないか？

[深浦町総務課]

- ・例えば、マットを敷いて講演を聴くスペースと避難場所のスペースを分ける。高齢者にはマットがあるとありがたいと思う。

[司会]

- ・年齢層が広いので、場所については考慮が必要。

[修道小学校]

- ・B案の意図としては、開設の最初の部分を児童と地域の方と協力してできることを考えている。そのための居場所づくりの前に打ち合わせを設けている。今回はA案となっているが、令和5年度以降は、B案のような形で小学校が防災訓練に参加できるようになることが望ましい。

[スポーツ健康課]

- ・アクションカードについて、避難所設営の全体を見通すことができるような工夫が必要。普段から児童が見ることができるような掲示物が効果的だと思う。
- ・令和3年10月の防災訓練でのアクションカードの活用については、児童に、①カードに従って行動する力、②カードの内容を理解する力の2つの側面の力が不足していたように思う。①については、日常の教育活動の中にアクションカード的な要素を取り入れて慣れさせることが考えられる。②については、表現方法の工夫によって改善することが考えられる。

[日本赤十字社青森県支部]

- ・訓練の方法は多種多様であり、これが正解というものはない。それぞれの地域や実態に応じて工夫することが大切であり、学校と地域が協力することが重要。
- ・訓練は継続して、様々なパターンで行うことも重要。例えば、修学旅行中で6年生が不在の場合には、5年生が下級生をリードしていくことも考えられる。

[修道小学校]

- ・5月26日にやってみないと分からないことがたくさんある。試行錯誤して進めていきたい。
- ・メインは6年生として考えて、まずはやってみる（令和4年度）。縦割り班には5年生もいるので、受け継ぐのは徐々に。

[深浦町総務課]

- ・児童にとってアクションカードの訓練、練習がまず一番の課題である。
- ・地域の方には、助けてもらう側だけでなく、助ける側の立場の人も出てくるので、それも想定したカード作成、改善を考えていくのが良いのでは。

## 校内検討会

日 時：令和4年4月11日（月）

※深浦町の担当者が異動により全員替わったので、深浦町の新しい担当者3名と西北教育事務所担当者が参加して、学校と行政との共通理解を図った。

## 第2回検討協議会

日 時：令和4年4月25日（月）14：30～16：30

場 所：深浦町立修道小学校 会議室

内 容：5月26日実施予定 地域と連携した防災訓練（深浦町総合防災訓練）について

協議内容

- 訓練に関する以下の内容について詳細な検討がなされた。
  - ・アクションカードについて
  - ・受付について（名簿の作成、記入の流れ、記入台の高さ）
  - ・コロナ対応（感染予防対策、受付時の振り分け）
  - ・訓練全体のスケジュールについて

- ・防災センターの使用場所の割り振りについて（地域住民、消防団等の待機場所）
- ・防災訓練の第三者による評価について（評価者、評価方法）
- ・防災訓練の広報について（町による毎戸配布、学校による保護者へのお知らせ）
- ・大戸瀬中学校との連携（講演へのオンライン参加）

### 第3回検討協議会

日 時：令和5年2月14日（火）14：30～16：30

場 所：深浦町立修道小学校 会議室

内 容：2年間の本事業の総括、今後の防災教育への取組

協議内容

[修道小学校]

※令和3年度からの10年間の防災教育の取組をまとめた「修道小学校 未来の防災リーダー育成計画」(p52)を参照

- ・できる限り長く続けることが本事業の意義の1つだと思うので、10年間は最低限取り組もうという考えのもとで作成した。
- ・これまでの避難訓練は、保健安全部で計画していたが、防災教育全体となると保健安全部だけでは賅いきれないので、各分掌で役割を分担した。
- ・「できることからまずはやってみる！」ということで、今年度は玄関にある賞状の額縁などのガラス製の展示品を撤去した（減災の視点）。
- ・今年度までの2年間は津波をテーマに取り組んだが、昨年の豪雨災害なども踏まえ、令和5年度は津波に限らずに他の災害種もテーマに取り組みたいと考えている。
- ・昨年8月の災害時には、消防団の役割がとても大切だと感じたので、消防団の活動を知る学習を取り入れたい。

[司会]

- ・育成計画にある「防災基礎学習」について、深浦町としてどのような協力が可能か。

[深浦町総務課]

- ・可能な限り協力する方向で進めたい。
- ・深浦町総合防災訓練では、当面の間、全ての地区で避難所設営訓練を実施する予定。
- ・災害対策本部の設置は深浦地区で行う予定。
- ・毎年、北金ヶ沢防災センターでも訓練を行う予定であり、小学校とも協力して実施できるとよい。

[修道小学校]

- ・避難所設営訓練をやってみて大事だと感じたのが「安否確認」である。前回の検討協議会でも台帳の準備が話題になった。QRコードの活用もできると聞いたこともある。災害時の住民の安否確認方法について、深浦町の今後の見通しや計画はあるか。

[深浦町総務課]

- ・具体的な計画は無い。QRコードの導入については現実的には難しい。  
（理由）地区が点在。全地区導入が前提。システム自体が多く分野に及ぶ（管理運営、予算の問題）。
- ・現状では、基本台帳（紙ベース）で安否確認を行う。自治会長に管理してもらう。  
（問題点）更新業務（頻度、町内35地区）

[日本赤十字社青森県支部]

- ・QRコードの導入には様々な課題（電源の確保など）がある。
- ・結局のところ、紙ベースの管理が一番良いと思う。
- ・システム構築から始めると運用担当者がいないとできない。誰かに頼らないとできないシステムは長続きしない。
- ・紙ベースであればどこにどんな人が住んでいるのか、子どもたちに調べさせて、住んでいる人のマップづくりの作業をさせれば、子どもたちも楽しみながら作業するのではないか。一人での作業はつま

らないが、皆で協力すれば楽しくできる。

[地域の自主防災組織]

- ・防災訓練について、今までは北金ヶ沢と関地区が参加しているが、他の地区にも参加してもらった方がいいのでは。

[修道小学校]

- ・理想は全ての地区で訓練を行うべきである。ただし、学校として可能な範囲で長く続けるという方針で示した計画である。
- ・小学校で学んだ経験を将来的に各地区で活かせるよう子どもたちを育てていくことが大切。

[地域の自主防災組織]

- ・昨年の訓練でも、5・6年生がよく役割を果たしていて頼もしく感じた。
- ・他の地区にも呼び掛けなければ来ない。もしかすると北金ヶ沢地区と関地区だけでやっているかもしれない。他の地区にも呼び掛けてみてはどうか。

[大戸瀬中学校]

- ・防災訓練を通じて中学校でも小学校と連携して何か取り組みたい。

[司会]

- ・小学校は津波、中学校は土砂災害の想定区域内にあり、それぞれ防災教育を行っている。そうした意味でも小中連携は子どもたちや地域にとって大切なことである。
- ・他県の事例では、地域のゴミ拾いを行うときに防災の視点で確認しながら行うことで地域の災害リスクを考える活動として取り組んでいる事例もある。
- ・次年度以降の地域との連携については、他地区の自治会長へ訓練の参観を依頼することがスタートなのかもしれない。

[司会]

- ・参加者から2年間で振り返って感想等をいただきたい。

[大戸瀬中学校]

- ・中学校ではリーダー育成の部分が遅れていると感じている。避難所設営訓練を見て、子どもたちに主体性が身に付いていると感じた。
- ・菊池のどか氏の講演をオンラインでつないで聞くことができて大変ありがたかった。

[地域の自主防災組織]

- ・小学生が中学校に進学後、中学校の先生に教えられるくらいになるのではないかな。
- ・できないことを探してできるように、これからも取り組んでいくことが大切。

[日本赤十字社青森県支部]

- ・様々な学校で体験学習を担当したが、我々も子どもたちから学ぶことがたくさんあった。
- ・これからも共に防災について取り組んでいければと思っているので、講師依頼などあればぜひ声をかけてほしい。

[深浦町総務課]

- ・昨年8月の豪雨災害の時に感じたことは、災害時に安全を確保するためには地域の力が絶対に必要だということ。地域が頑張っているのに役場の体制が整っていないのはいけないと思うので、しっかりと体制づくりに取り組みたいと思う。

[深浦町教育委員会]

- ・送迎バスなどの環境整備や予算の面で思うように力になれず申し訳ない。ヘルメットの整備については是非検討したい。

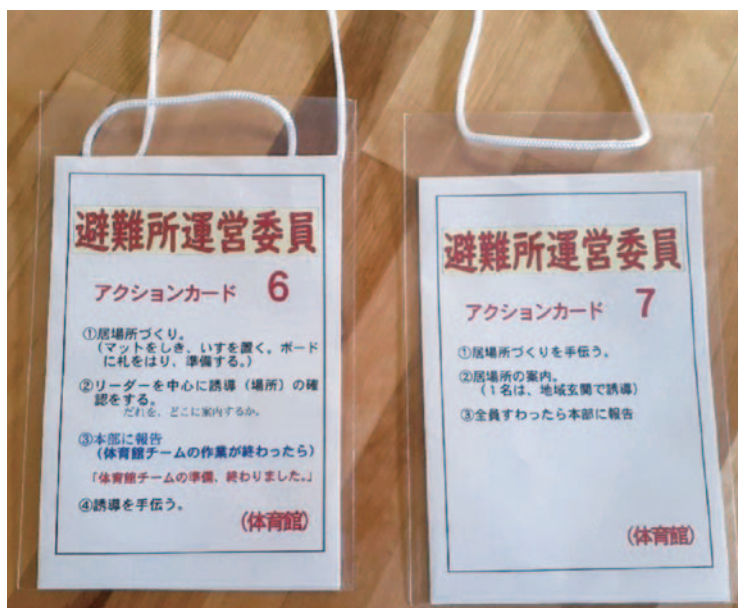
[スポーツ健康課]

- ・本事業では、指定校6校で地域と連携した防災訓練とその検討を行う協議会を行った。どの地域でも災害から命を守ることにについては皆が共通して思っていること。ただし、訓練の検討となるとそれぞれの立場でニーズやできることが様々あり、そこでどう折り合いをつけるかという点で大変な苦労があると思う。修道小学校を含め指定校6校で行っていただいた防災訓練及び検討協議会については、

全国的にも先進的な取組だと思うので、本事業で構築した連携体制を今後とも継続していただき、地域の防災力の向上に役立てていただきたい。本事業の成果によって一人でも多くの命が災害から守られることを願っている。

[修道小学校]

- ・ 2年前、本事業を受け入れる際には見通しを持つことができなかったが、何でもやってみようということで進めてきた。修道小学校に赴任して10年、今では教え子が深浦町役場に勤務している。この度、10年間の防災教育計画を示したが、10年はあっという間で短い。修道小学校で防災を学んだ子どもたちが、将来リーダーとなって命を守り、また子どもたちに教えるようになってくれたらと思う。



防災訓練時に児童が使用したアクションカード（一部）